広報
しうら
No.343
平成11年
5月号

▲交通事故抑止とセーフティー300事業に向けて、決意表明する成田武司さん

セーフティー300事業に セーフティー 50チーム 530人が挑戦

4月30日交通事故抑止村民総決起大会が開催され、同時に「セーフティー300事業」も5月1日からスタート、100万円を目指し、50チーム530人が300日間、無事故・無違反に挑戦する。 （関連記事4ページ）

発行・青森県市浦村役場／編集・企画財政課企画広報係　〒037-0401 青森県北津軽郡市浦村大字相内字相内349-1 ☎0173-62-2111

髙松隆三氏が無投票当選

任期満了に伴う市浦村長選挙は、四月二十日告示され、現職で三期目を目指す髙松隆三氏（六十六歳）以外に届出がなく、無投票で三期目の当選を果たしました。

市浦村長選挙での無投票当選は初となり、髙松村政の三期目が五月十八日からスタートしました。

3期目の 髙松 隆三村長

髙松氏の公約

- ●特別養護老人ホームの建設を進めます。
- ●医療と福祉を出前する『包括ケア』を実施します。
- ●『青い医学』海水温泉の建設をします。
- ●太田・桂川地区の圃場整備と相内川などの改修をすすめます。
- ●二十一世紀に生き残るための『スクラム農業』の構築をはかります。
- ●十三湊漁港の建設と魚の陸上養殖の開発もすすめます。
- ●ゴミ処理や下水道など、生活環境の整備をすすめます。
- ●カートレインの現実につとめます。

◀4月26日当選証書を交付される髙松氏。3期目がスタートしました。

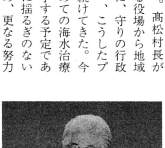
躍動感あふれる市浦村

公共事業総合落成式で完成祝う

村が平成十年度、相内地区に建設を進めていた統合保育園「アトム保育園」と村営火葬場「市浦村露草斎苑」がこのほど完成し、平成六年度から完成した各種工事と併せ、四月十日コミュニティーセンターで公共事業総合落成記念式典が行われました。

式典には村、県、工事関係者百五十名が出席。髙松村長が「地域を管理する役場から地域を経営する役場に、守りの行政から攻めの行政へ、こうしたプラス思考で歩み続けてきた。今年度は東北で初めての海水治療温泉の建設に着手する予定であり、二十一世紀に揺るぎのない市浦村を創るため、更なる努力をしていく」と式辞。工藤助役が平成六年度から十年度までの工事経過報告を行い、用地提供者、工事関係者へ感謝状が贈られました。

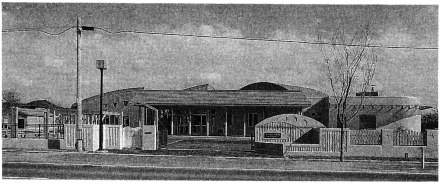
式典では、青森県知事(代理)津島雄二、木村太郎衆議院議員、山崎力参議院議員、友好町村である北海道・上ノ国町、福原町長より式辞があり、施設の完成を祝いました。



◀式辞を述べる髙松村長

◀祝辞を述べる上ノ国町・福原町長

アットホームな雰囲気で…アトム保育園



▲アトム保育園

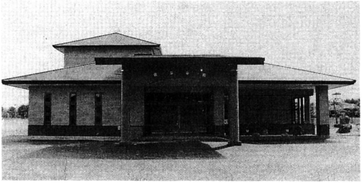
「アトム保育園」は、総工事費三億六千三百七十万円で相内地区に建設、延べ床面積千四十七平方メートルの木造平屋建て、全国的にも珍しい園児が昼寝するためのベットが設けられているほか、専用の食堂もあり、定員は七十名。
　また、相内地区以外の園児は村が委託した専用バスで送迎されています。

　保育園の名称は園児が家庭のぬくもりが感じられるアットホーム的な雰囲気の中で、すこやかに成長してもらいたいことから「アトム」と名付けられました。
　保育園内には、子育て支援センターも併設され、子育てに関する情報提供や相談業務なども行うことになっています。

▲専用の食堂を完備

▲園児送迎用バスが運行されています

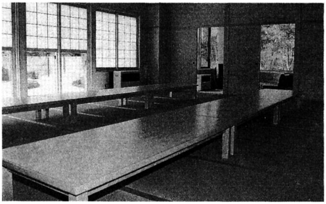
露草斎苑（つゆくさ さいえん）



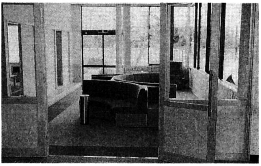
▲最新の火葬炉を備えた〝露草斎苑〟

「露草斎苑」は総工事費一億四千九百七十万円で相内地区に建設、延べ床面積約三百五十平方メートルの木造一部二階建て、火葬炉一基、冷暖房完備の約三十畳の和室と待合ロビー、乗用車二十五台分の駐車スペースなどを備え、これまでの火葬場のイメージを一新した近代的な施設となっています。
　村内の火葬場はこれまで、相内、脇元、十三の三施設がありましたが「露草斎苑」の完成に伴い役目を終えました。

▶和室



▶待合ロビー



露草斎苑は厚生年金・国民年金積立金還元融資で建設された施設です

無事故無違反300日と100万円をめざし

セーフティー300事業がスタート

四月三十日、コミュニティセンターにおいて、村民三百五十名が参加し、交通事故抑止村民総決起大会が開催されました。今年四月から『市浦村交通安全推進に関する条例』を制定したことに伴い、村ではその趣旨を村民に広く普及し、村内の交通事故を抑止するためセーフティー300事業をスタート、三百日間無事故無違反に、友達同士や職場の仲間、町内会などで編成された、五十チーム、五百三十名が挑み、百万円をめざすことになりました。

村ではこれまで、交通事故防止のため、街頭指導やチラシ配布など、いろいろな対策を講じてきましたが、この二年間で交通死亡事故が四件発生し、五人が死亡しています。

大会では、市浦村交通安全対策協議会長の髙松村長が「毎年全国で一万人近い方々が交通事故で亡くなっている。交通安全運動をすすめるには一人ひとりが主役でなくてはならない、セーフティー300事業では、全五十チームがそろって、抽選会に参加してもらいたい。」と、山口康男金木警察署長がセーフティー300というユニークな事業に取り組む自治体は、全国的にも市浦村だけである。警察署としても、交通安全意識向上のため大いに協力したい。」と、あいさつ。続いて、参加チームを代表して、成田武司さん（ヤングドライバー代表・100万円どうもありがとうin商工会青年部チーム）、小山内千津子さん（レディードライバー代表・十三美人クラブ）、若山恭次さん（シルバードライバー代表・しじみラーメンチーム）の三名が「地域ぐるみで交通事故抑止に努める。」と決意表明。

最後に青森県警察音楽隊（天間隆 楽長 ほか三十六名）による演奏会も開かれ、セーフティー300事業がスタートしました。

セーフティー300事業

①市浦村民であり日常、自動車（二輪車含む）を運転する方が十名以上でチームを編成。

②平成十一年五月一日から平成十二年二月二十四日までの三百日間「無事故・無違反」に該当するチームに報償金百万円（研修旅費を含む）を贈る。ただし、申請チームが複数の場合は、抽選により決定し、一チームに百万円を贈る。

③三百日間「無事故・無違反」該当チームは平成十二年三月一日まで役場に申請が必要。

無事故

▲シルバードライバー代表
若山恭次さん

決意表明

▲レディードライバー代表
小山内千津子さん

▲山口康男金木警察署長が激励

▲県警音楽隊による生演奏が大会を盛りあげました

無違反

▲未来のドライバー・市浦中学生も大会に参加

よみがえる中世港湾都市 十三湊特別展
歴史民俗資料館で始まる

五月一日から歴史民俗資料館において、「よみがえる中世港湾都市十三湊特別展（出土品・古文書は語る）」がスタートしました。

これは、最近の発掘・研究成果から見た十三湊遺跡の実態と北方世界との交易・流通拠点の窓口として役割を果たした中世日本有数の港町、十三湊を支配した安藤氏の軌跡を紹介することで、日本中世社会での「北の文化」の位置づけを考えようと開催されたものです。

この日は、開館初日ということもあり、佐藤正昭県教育長、高松隆三村長など約四十人が出席し、オープニングセレモニーが行われ、主催者を代表して木村義光教育長が「歴史の重みを感じさせる数々の資料が展示しており、先人たちの心にふれていただきたい」とあいさつ。つづいてテープカットなどが行われました。

セレモニー終了後には、榊原滋高学芸員による管内展示品の説明が行われ、県教育委員会文化課の職員や村内各小学校長などもメモをとりながら熱心に耳を傾けていました。

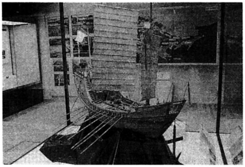
館内は主に四つのブースに分かれており、第一、第二展示室は発掘調査の出土品の紹介、第三展示室は「古文書・石像物は語る」と題して「大乗院文書」「羽賀寺縁起」「大般若経」「奥州十三之図」などが複製されています。そして、第四展示室は、発掘調査の様子をビデオで紹介しているなど、それぞれがテーマをもった構成となっています。

ゴールデンウイーク期間中には、県内外から約千二百人の来館者があったように関心の高さを示しており、これを機会に村民の皆さんも安藤氏の足跡に想いをはせてみてはいかがでしょうか。

なお、特別展の会期は、十二月二十三日㈭までとなっています。

▼お問い合わせ
歴史民俗資料館 ☎六二―二七七五

▶榊原学芸員の説明に耳を傾ける出席者（右から二人目が佐藤正昭県教育長）



▶元代の交易船模型（国立歴史民俗博物館蔵）

市浦牛の放牧始まる

四月二十七日、村の牧場に市浦牛（黒毛和種）が放牧されました。

村には現在二十四戸の飼養農家があり、この日も早期から牧場に牛が搬入されました。放牧前の牛は、健康状態のチェックや予防接種のあと、広い牧場に出され、元気に走りまわったり、のんびりと牧草を食べていました。

牧場の牛は、十一月一杯まで放牧される予定となっています。

▲放牧された市浦牛

交通安全標語を設置
市浦村安全協会

脇元地区にこのたび、交通安全標語が設置されました。

この標語はこれまで設置されていた標語板が老朽化したことにより、村安全協会（白川孝治会長）が脇元小学校に標語を募集、応募作品の中から三点を選び、今回新たに設置したものです。

白川会長は「地域の交通事故防止に少しでもお役に立てれば、と設置した。一度足を止めてご覧になっていただきたい。」と宣伝。

交通マナーを守り、交通安全に心がけましょう。

▲脇元地区に設置された交通安全標語

▶相内小学校には十一人の新入生が仲間入り

◀新一年生のトレードマーク「黄色い帽子」がライオンズクラブ（高橋哲弘会長）から、全員に贈られました（相内小）

アトム保育園入園式(4/5)
村内小・中学校入学式(4/7)
金木相内分校入学式(4/8)
カメラ・ルポ

4月5日ーアトム保育園完成後初めての入園式が行われ、80人の園児たちが保護者に手を引かれ入園式に出席。アトム保育園の第一歩が踏み出されました。

4月7日ー村内各小・中学校で一斉に入学式が行われました。この日は雪に見舞われ、あいにくの天気でしたが、新入生は、新品のランドセルを背負い元気に登校していました。

今年度の新入学生

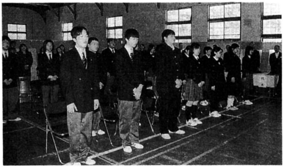
相内小学校 ……	11人
太田小学校 ……	2人
脇元小学校 ……	8人
十三小学校 ……	4人
市浦中学校 ……	27人
金木高相内分校 ……	13人

▶「今日から新しい学校生活が始まります」（脇元小）

◀少し緊張ぎみ…（十三小）

▶学生服姿がりりしい（市浦中）

◀太田小学校は二人の新入生



▶金木高相内分校は十三人が入学

◀「これからアトム保育園の入園式を行います」

自分の健康　自分で守ろう

総合健診『一日ドック』で村民850人が受診

四月十二日～十六日の五日間、総合健診・一日ドックが海洋センター体育館で行われ八五〇人が胃、大腸、肺などの各種がん検診を受診、一年一回の健康チェックを受けました。

一日ドックは、平成五年度から実施され今年で七年目となり、村民の方々にも今ではすっかり定着しており「すべてのがん検診が、一日で終わり大変助かる、自分の健康を守るためにも毎年受診したい」と好評です。

最終日には七十歳以上の方々を対象とした寿健診が行われ、受診を終えた方々に市浦村食生活改善推進員会（奈良しづ江会長）による朝食のサービスがあり、受診者から「おいしい」と喜ばれていました。

▶採血も大事な健診項目

▶笑顔が健康に一番

◀朝食サービスを提供
食生活改善推進員の皆さん

▶寿健診では朝食サービスもありました

消防・ネットワーク

火事と救急・救助は一一九番

『山火事防止にご協力を！』

春は、空気が非常に乾燥し、地面には、火の付きやすい枯れ草が敷き詰められています。春の山菜採り、行楽のシーズンは、山火事のシーズンとも言われるほど、林野火災の発生時期は、三月下旬から、五月に集中し、林野火災の約七割がこの時期に発生しています。

林野火災の発生原因は、自然発火、たき火、タバコの投げ捨て、火入れ、などとなっており、自然発火以外、原因の大半を人為的な行為が占めています。

過去六年間の県内林野火災発生原因別件数は、次のようになっています

・たき火………五六件
・たばこ………三八件
・火入れ………二一件
・火遊び………二件
・その他………一八件
・不　明………五八件

山火事を防止するには、火の使用、始末にたいする村民各位の注意が肝心と思われます。

昨年四月に八戸市で発生した林野火災は、強風、乾燥下でおき、原野十二ヘクタールを焼きました。それ以上に住民を驚かせたのは、住宅被害の大きかったことで、全半焼した住家、非住家は、合わせて十五棟にも上がった。およそ四十台の車両と三百人の署員、団員を投入した消防力をもっても、「消火が追いつかない」という結果を招いた。林野火災は、いったん燃え広がると、気象条件次第で大きな災害になり兼ねません。

そこで、次の事を守り市浦村から林野火災を無くしましょう。

①空気が乾燥し、強風のときは、たき火、火入れは行わない。
②屋外でのたばこの投げ捨ては、しない。
③たき火、火入れの際は、消火用の水、砂等を用意し、監視を怠らないようにする。

山火事予防標語

「火を防ぎ　緑の山から　広がる未来」

観光路線バス「やまなみバス」が運行されます

観光路線·生活路線として一層の期待

昨年度試験運行された、観光路線バス「やまなみバス」が、今年度も6月1日から8月31日までの3か月間、十三湖～蟹田町間で1日3往復運行されます。

やまなみバスとの主な接続ダイヤ

通常期 ● 6月1日から7月19日まで
● 8月21日から8月31日まで

市浦	蟹田駅	蟹田港	接続
① 8：00 →	8：55 →	9：00 →	フェリー 蟹田発 脇野沢着 9：20 ～ 10：20
	8：55 →		JR 蟹田発 青森着 9：20 ～ 9：44（特急はつかり12号）／ 9：24 ～ 10:03（普通）／ 蟹田発 函館着 9：51 ～ 11：58（快速海峡3号）
10：20 ←	9：25 ←	9：20	JR 青森発 蟹田着 8：08 ～ 8：49（普通）／ 函館発 蟹田着 7：46 ～ 9：19（特急はつかり12号）
② 11：30 →	12：25 →	12：30 →	フェリー 蟹田発 脇野沢着 13：50 ～ 14：50
	12：25 →		JR 蟹田発 青森着 13：08 ～ 13：35（快速海峡4号）／ 蟹田発 函館着 13：07 ～ 14：37（特急はつかり5号）
13：45 ←	12：50 ←		JR 青森発 蟹田着 11：13 ～ 11：40（快速海峡5号）／ 函館発 蟹田着 10：13 ～ 11：43（特急はつかり16号）
13：45 ←	12：50 ←	12：45 ←	フェリー 脇野沢発 蟹田着 10：50 ～ 11：50
③ 15：00 →	15：55 →	16：00	JR 蟹田発 青森着 16：14 ～ 16：41（快速海峡8号）／ 16：29 ～ 17：14（普通）／ 蟹田発 函館着 15：58 ～ 18：13（快速海峡9号）
17：40 ←	16：45 ←		JR 青森発 蟹田着 15：43 ～ 16：29（普通）／ 三厩発 蟹田着 15：46 ～ 16：28（普通）／ 函館発 蟹田着 14：12 ～ 16：13（快速海峡8号）
17：40 ←	16：45 ←	16：40 ←	フェリー 脇野沢発 蟹田着 15：20 ～ 16：20

※ＪＲをご利用される方は、予め時刻表を確認してください。

やまなみバス運行の概要

①運行期間　平成11年6月1日～8月31日（3ヶ月間）
　○通常期　6月1日～7月19日まで
　　　　　　8月21日～8月31日まで
　○繁忙期　7月20日～8月20日まで
②運行経路　市浦村十三湖（十三公民館前）～蟹田町（トップマスト）
　1日3往復、全区間フリー乗降
③運　　賃　全区間一律　大　人：500円　子ども：250円
④乗車定員　乗客25人乗り
　※乗車定員以上で御利用の際は弘南バス（☎0172-32-2241）までご連絡ください。

フェリー（かもしか）運賃表

蟹田～脇野沢間60分

◆旅客運賃料金

区　分	運　賃（円）	
2　等	大人　1,120	小人　560
特別室料金	大人　400	小人　200

●お問い合わせ先
下北汽船㈱　青森本社営業所　☎0177-22-4545
　蟹田町営業所　☎0174-22-3020
　脇野沢営業所　☎0175-44-3371

脇野沢にレンタカーがオープン

4月から脇野沢港にレンタカー営業所がオープンしました。

●レンタカー利用料金
　5,000円～11,500円（12時間）
　※青森県内営業所乗り捨て無料
●レンタカーの予約・お問い合わせ先
　㈱トヨタレンタリース青森
　　下北脇野沢営業所　☎0175-31-5100

第3回　十三湖「湖上ウォーク」が開催されます

十三湖を歩いてみませんか

（第2回十三湖湖上ウォークより）

昨年開催された十三湖「湖上ウォーク」が今年も開催されます。

中世・十三湊の歴史を感じながら、十三湖を歩いてみませんか。

開催日：平成11年7月20日㈫　海の日
開催場所：十三湖
コース：鰊崎～中の島（約4キロ）
　※コースの水深は深いところで120センチ前後になります。
申し込み方法：所定の申込用紙を使用して申し込んでください。
　申込用紙は役場企画財政課に備え付けています。
申し込み〆切：平成11年6月30日まで
　なお、自己都合によりキャンセルした場合、参加費は返却できませんのでご了承ください。
募集人員：300人
参加対象：小学5年生以上
参加費：1人2,000円
お問い合わせ先：十三湖「湖上ウォーク」実行委員会
　事務局（役場・企画財政課内）
電話番号：62-2111

B&G海洋体験学習
国内体験海洋セミナー体験記

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（B&G）では、小・中学生を対象に規則正しい生活を通じて、「海」・「船」・「海洋環境」に対する理解と知識を習得させ、相互交流による豊かな人間形成を図ることを目的に国内体験海洋セミナーを実施しています。

今年の海洋セミナーは、三月二十八日から三十一日の四日間の日程で行われ、市浦村からは、村元繭美さん（磯松）、相坂幸世さん（十三）、富坂恵介くん（磯松）の三人が参加しました。

今回参加した三人から海洋セミナー体験記が寄せられたのでご紹介します。

海洋セミナーに参加して

村元　繭美

三月二十八日、私達は羽田から那覇まで飛行機で移動しました。飛行機では、隣が男子だったので友達になれず、とても残念でした。

那覇空港に着いてからは、すぐ現地活動で『ひめゆりの塔』へ移動しました。そこでは、第二次世界大戦の時の話を、当時ケガ人を看病していた人が、なまなましく語ってくれました。その後、第二次世界大戦の時の資料や、ケガ人を看病していたという洞窟を見ました。

それから、ホテルに移動しました。ホテルでは同じ部屋の人みんなと仲よくなれて、とても安心しました。

二十九日（二日目）の現地活動は、『グリーンランドプログラム』でした。比地の大滝を見に、山を登りました。長い階段を上がったり、下りたりとても大変でした。でも、比地の大滝はすばらしかったです。山の帰りにとても珍しいものなども見れました。上るときも帰るときも無理やり川に入れられたけど、最後にまた友達が増えて嬉しかったです。この後、海洋博記念公園に行って、イルカショーやいろいろな魚を見ました。

三十日（三日目）の現地活動は『ブルーシープログラム』で、マリンスポーツが中心でした。

まずはじめに、半潜水艇に乗りました。半潜水艇に乗ってサンゴを見るはずでしたが、でも、気持ち悪くなってサンゴはあまり見れませんでした。その他、「もう君達は、二度とこの船には乗れないよ。」と言われていた船や、カヌーやサバニーに乗りました。サバニーはとても不安定でした。でも、サバニーに乗っているとき、青い魚をたくさん見ることができました。

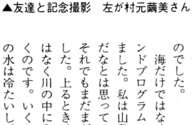
それから弁当を食べて、午後はバナナボートに乗りました。このとき無理やり前に乗せられたけど、とても楽しかったです。そして、最後にサバニーの競走をしました。私は出なかったけど、私達の組が優勝でした。

それからホテルに帰り、夕食を食べました。この日は最後の夜なので、伊丹組と羽田組一緒にオーシャンホールで食べました。いろんな班の人が入り乱れてとても楽しかったです。夜は、消灯時間を守らず、同じ部屋の人とずっとしゃべっていました。途中リーダーにも怒られたけど、とても楽しかったです。

三十一日（四日目）は、いよいよ最終日です。現地活動は『玉泉洞王国村』に行きました。そこでは、鍾乳洞を見ました。暗くて、生ぬるい風が吹いていて、とても道が長かったです。途中に戸があったので、こっそりのぞいてみたら、すぐ階段になっていて、階段にはいくつものつぼが並べられていました。

鍾乳洞を出たあと、沖縄の踊りもチラッとですが見ることができました。

帰る時間になり、那覇空港にむかいました。ホテルで同じ部屋の人が隣の席だったので、ずっとしゃべっていました。そして、羽田空港に着いて、解散になりました。少しさみしかったけど、文通の約束もしたし、青森の人も結構いたので、また会えると思うとすごく楽しみです。今度機会があったら。また沖縄へ行きたいです。



▲友達と記念撮影　左が村元繭美さん

国内体験海洋セミナーに参加して

相坂　幸世

三月二十七日～三十一日にかけて、私は沖縄でたくさんの体験をしてきました。

出発前、私には不安なことがたくさんありました。まず、班長になったことです。中学生は私一人だけだったので、他のみんなをまとめられるかとても心配でした。

私が特に楽しみにしていたのは、マリンスポーツでした。カヌーやはじめて乗ったバナナボート、また、船に乗ってサンゴ礁を見たり、楽しいことがたくさんありました。その中に「サバニ」という沖縄の漁師が漁をするときに使っていた船にも乗りました。オールを持って十二人位でこぐけれど結構厳しいものでした。

海だけではなく、グリーンランドプログラム「山登り」もしました。私は山登りは大変そうだなとは思っていました。が、それでもまだまだ甘かったのでした。上るときはなんと、道ではなく川の中に入って登って行くのです。いくら沖縄でも、川の水は冷たいし、滑るし、ヘビ

がいたのでとてもいやでした。でも、最後まで登りたかったし、沖縄で一番美しいといううわさの滝が見たかったので頑張ることができました。普段、自然とふれあうことがあまりない私にとって、マリンスポーツや登山という貴重な体験をすることができたのは、うれしいことでした。

　三十日のパーティーでも、とてもうれしいことがありました。それは、誕生日を祝ってもらったことです。私の誕生日は本当は二十九日なのですが、ほかにも誕生日の人がいたので、その人たちと一緒に、みんなに祝ってもらってとても感激しました。心に残る思い出がまた一つ増えました。

　他の県の人たちと交流を深めるのもセミナーの目的だと思います。だから、何よりも忘れられないのは友達です。初対面のときは、恥ずかしくてなかなかうまくいかなかったこともありました。特に部屋にいるときはみんなバラバラに行動していました。でも、お互いに少しずつ話をしていったら、すぐに友達の輪が広がり、おしゃべりに夢中になって「はやく寝なさい」としばしば注意されるほどでした。

　最後の夜は特に、友達と別れ別れになりたくないという気持ちが強くて、同じ布団で寝てしまいました。

　今いるところから、少し離れてみれば、世界は広がるんだなということも学びました。

　最終日は、羽田空港でみんな解散です。最後の最後まで別れるのはつらかったけど、いつかまた会えることを信じて青森へ帰って来ました。

　最後になりましたが、青森～東京を案内してくれた葛西さん、リーダーや私に協力してくれた班員のみんな、何よりも「セミナーに行ってみれば？」と応募してくれたお母さん。ありがとうございました。

▶班長としてがんばりました
前列左から三人目が相坂幸世さん

沖縄に行ってきて

富坂　恵介

　三月末のこと、前々からいって見たいと思っていた沖縄に行くことができました。

　たくさんの応募者の中から選ばれとてもうれしく思っています。

　青森空港から羽田空港まで飛行機に乗ってる間、沖縄にはどんなものがあるんだろうとか、どんなことをやるんだろうとか考えて、とても楽しみでした。しかし、友達ができるだろうかという不安も感じていました。

　羽田空港に着くと、すぐにモノレールに乗り、今日一泊するホテルに行きました。

　その日は、東京の竹下通りなどを案内してもらいました。青森では見たこともないものがたくさんあり、おいしいクレープも食べ、とても楽しかったです。

　その夜は、楽しい沖縄研修が思い浮かび、次の日が待ち遠しくてたまりませんでした。

　翌日、羽田空港まで行きました。羽田空港にはすでにセミナーの参加者がたくさん集っていました。

　メンバーが集まると、さっそく那覇空港行きの飛行機に乗りました。飛行機の中で何だか話しもできずに、ずっとだまっていましたが、時間が経つにつれ、自然に話しができるまでに打ち解けて、いつのまにか友達になっていました。これで来る時抱いていた不安も消えました。

　那覇空港に着くと、さすがに暑く、汗が止まりませんでした。

　沖縄で、まず最初に行ったのは『ひめゆりの塔』です。ここでは、沖縄戦での悲劇やその資料などを見てきました。その後はショッピングです。たくさんの物が売っていました。そして、『ひめゆりの塔』をあとにして、ホテルに向かいました。

　ホテルの部屋では、まだ名前も知らないみんなと、まる一日をかけて、少しずつでしたが友達になっていきました。

　二日目は、山に行きました。山では、川に入ったり、自然の音を聞いたりとたくさんのことをしました。その中でも、山の奥の、巨大な滝はとても印象に残っています。

　そのあとも、海洋博記念公園に行ったり、ショッピングしたりといろいろなことをしました。この日はとても疲れ、ふとんに入るとすぐに眠ってしまいました。

　三日目、この日はマリンスポーツをやりました。マリンスポーツはカヌー、バナナボート、ヨット、半潜水艇などやりました。僕はその中でも、バナナボートが一番おもしろかったです。

　マリンスポーツが終わったあとは名護パイナップルパークに行きました。そこには、特産品のパインや、その加工品がたくさんありました。

　ホテルでは、最後のパーティーをやりとても楽しかったです。

　とうとう最後の四日目です。この四日間で、僕はたくさんのことを知り、たくさん学びました。この研修で学んだことをこれからも役立てて行きたいです。

▶宿泊先でリラックス　富坂恵介くん

第6回「東北水環境交流会イン十三湖」に参加を

水をキーワードに環境問題を話し合い、ひとと人とのネットワークを通して、次世代へ向け、新しい文化や水環境の創造を考える「東北水環境交流会」（水環境ネット東北／岩木川と地域づくりを考える会／市浦村共催）が七月九日から十一日までの三日間、当村を会場に行われます。

この交流会は、これまで平成六年の宮城県白石町で行なわれた第一回交流会から岩手県水沢市、秋田県十文字町、福島市、山形県長井市と東北五県を会場として実施してきましたが、東北を一巡する今年の青森県での大会は、当村の「中の島ブリッジパーク」を会場に開催されることになりました。

交流会では「白神山地、岩木川、日本海」をサブタイトルに、野外での催し物が中心となっています。

特に水や川、湖をテーマにした十五の分科会（ちょちょじの集い）のうち三つの分科会では子供のみが参加し話し合われることになっており、岩木川下り（大人のみ）や、十三湊遺跡巡りなど、老若男女が一緒になって学び楽しめる内容となっていますので、ぜひ参加してみてはいかがでしょうか。

主な内容

7月9日(金) 10：00～17：00 18：00～20：00	「岩木川下り」（別途参加費￥3,000－昼食付き） ●中の島ブリッジパーク駐車場集合 「歓迎交流会」
7月10日(土) 9：00～12：30	「十三湊遺跡巡り」（別途参加費￥1,000－昼食付き） ●中の島ブリッジパーク駐車場集合 「津軽凧体験」（別途参加費￥1,000－昼食付き） ●中の島ブリッジパーク駐車場集合
12：00～	「登録受付」 ●中の島ブリッジパーク駐車場集合
13：00～13：30	「開会式」 ●中の島ブリッジパーク水上ステージ
14：00～18：00	「ちょちょじの集い（分科会）」 ●中の島ブリッジパーク各所 ●少人数での分科会。参加者全員が主役です。
19：00～21：00	「懇親交流会」
7月11日(日) 6：00～7：00 9：00～11：30	「十三湖ゴミ拾い」 ●中の島ブリッジパーク駐車場集合 「全体会議・閉会式」 ●中の島ブリッジパーク水上ステージ

◆詳細についてのお問い合わせ先・参加申し込み
役場建設課（第6回東北水環境交流会in十三湖事務局）☎62-2111

その他の事業

7月10日(日)13：00～11日(月)13：00
- 岩木川流域関連パネル展示
- 岩木川流域物産展

7月10日(日) 9：00～12：00
- ㈳五所川原青年会議所35周年記念事業 岩木川と十三湖ツアー （参加費1,000円―昼食付き）

電話番号変更のおしらせ

次のとおり、変更になりますのでお知らせします。
62－2410の電話番号は、生活改善センター（太田）から
↓
市浦村木材工芸センター（相内）に変更になりました。

善意に感謝します

このたび、相坂照衛さん（十三）より「社会福祉に役立ててください」と、香典返し（故相坂キサさん）の一部として10万円が寄付されました。

むり・むだ・見栄をなくし かしこい生活につとめましょう

☆葬祭について 〈市浦村かしこい生活運動推進協議会〉

法要	○10,000円（会費制）〈箱菓子引出物はやめましょう〉 ○引菓子は1,000円程度、お膳は5,000円程度にしましょう。	回忌法要とも会費制とする。額は10,000円。引出物はなし。お膳5,000円程度。口取1,000円。飲物ほか2,000円。
香典	○一般香典は1,000円程度にしましょう。（近親者はこの限りではない）	一般は1,000円程度。箱菓子・線香類などの供物は一般・近親者ともになし。
花輪（生花）	○一般はなくしましょう。（近親者はこの限りではない）	一般はなし（近親者はポスター掲示とし、額は10,000円以内とする）。
通夜の接待	○お茶菓子程度にしましょう。	お茶菓子程度。
香典返し	○500円以内にしましょう。	500円以内とする。
手伝い人へのもてなし	○お礼をなくしましょう。	

情報をお寄せください
おしらせ
役場の電話は62－2111

市浦村の人口と世帯数
平成11.5.1現在

大字名	前月人口	人口	世帯数
相内	1,254	1,267	417
桂川	67	67	22
太田	268	269	87
脇元	519	524	195
磯松	309	308	108
十三	799	806	255
計	3,216	3,241	1,084

身体障害者の無料巡回診査について

身体障害者等に対し、無料で巡回審査（診断書等作成）を行いますので、下記事項を留意の上ご利用ください。

▶対象者
①身体障害者手帳の交付を受けるため診査を必要とする方
②障害程度に変化があり、等級の変更を必要とする方
③補装具の交付、修理を必要とする方
④身体障害者で生活・医療・施設入所等の相談を希望する方
※注意事項
ア、脳卒中等発病後3ヶ月未満の方は除く
イ、内部障害は、心臓・呼吸器障害のみ
ウ、聴覚障害は、平衡機能障害を含む

▶診査科目及び日程と場所
●内部障害　6月18日㈮
五所川原市保健センター
●聴覚障害　6月24日㈬
五所川原市働く婦人の家
●肢体不自由　7月7日㈬
五所川原市中央民公民館

▶持参する物
①健康保険証
②身体障害者手帳（所持者のみ）
③心臓・呼吸器機能障害者は、胸部レントゲン写真
④印鑑

▶受付時間　午前9時～11時まで
▶審査及び相談時間
午前9時30分～12時
▶申込み　実施日10日前までに役場住民福祉課民生係へ
☎62-2111　内線32番

浅虫水族館からのお知らせ

◆夜の水族館見学会◆

▶実施日　6月12日㈯
6月19日㈯
▶受　付　17時30分から
▶時　間　18時から20時まで
▶内　容　普段見ることのできない閉館後の水族館の様子を、飼育担当者が説明を加えながらご案内します。照明が消えた水槽では、昼間と違う魚たちの姿を見ることができます。
▶入館料
特別入館料　大人 1,050円
※16時前に入館の場合は通常料金となります。

◆浅虫水族館ボランティアガイド募集◆

浅虫水族館ではボランティアガイドを募集しています。
▶実施日　7月24日から
8月22日間の日曜日
▶時間　午前10時から1時間程度
午後1時から1時間程度
▶研修　事前に資料による自宅研修及びスクーリングあり
▶お問い合わせ　浅虫水族館総務課
☎0177-52-3377

第40回青森県精神保健福祉大会が開催されます

県民が精神保健福祉について理解を深め、より豊かな精神的健康の保持・向上を図るため、第40回青森県精神保健福祉大会が開催されます。
▶と　き　平成11年6月25日㈮
午後1時～
▶ところ　五所川原市中央公民館
▶対　象　どなたでも参加できます。お気軽にご参加ください。
▶内　容　弘前大学医学部　兼子直教授による「精神保健福祉への展望」をテーマにした基調講演のほか、「地域精神保健福祉活動をめぐって」をテーマにシンポジウムが行われます。
▶参加料　無　料
▶お問い合わせ
五所川原保健所保健予防課
☎34-2108

青森陸運支局からのお知らせ

◆好きなナンバー選べます◆

自動車ナンバープレートの番号を自由に選ぶことができるようになりました。
▶対象車両　登録自動車（軽自動車及び二輪車は除く）
▶希望できる番号　4桁以下のアラビア数字の部分のみが自由に選べます。ただし人気が高いと考えられる26通りの番号（777ほか、25通り）は、抽選となります。
▶申込み方法　所定の申込書（予約センター備付）に所要事項を記入のうえ、予約センターに直接申込みを行います。申込みは代理人でもかまいません。
▶交付手数料　普通乗用車ペイント式で4,060円の他に、登録手数料が必要となります。
▶お問い合わせ
社団法人青森県自家用自動車連合会（予約センター）
☎0177-39-1881
または、青森陸運支局・自動車検査登録事務所　☎0177-39-1503

年金積立金還元融資で工事完了

特別養護老人ホーム静和園が進めていた、旧館給排水設備改修工事（雑排水浄化槽設置ほか）48,090千円のうち、13,000千円を年金積立金の還元融資を受けて、このほど完了しました。

6月30日（水）は自動車税の納期限です

納期限まで納めましょう。また納税貯蓄組合に加入している方は、組合を通じて納めましょう。

納税証明書は車検証といっしょに保管して下さい

健康への道

No.127

体の健康を左右する 歯の話

「歯・口腔（口の中）は、全身の健康に関わっています…」このような言葉を聞いて、意外に思う方はいませんか。

人間の歯・口腔は、全身にとってとても大切な役割を持ち、支えているのです。

『歯』が持っている秘密

◇歯・口腔の役割

皆さんがよく知っているように、歯は食べ物をかみ砕く役割を持っています。特に奥歯の存在は大きなもので、一本失っただけで、かむ力は半分になってしまいます。また、奥歯でなくても一本抜けるだけで、隣の歯から徐々に倒れていき、歯と歯の間にすきまができて、歯並びが悪くなったり、かみ合わせに影響を与えることになります。

◇「かむ」ことの効果

よくかむことは、口の中のだ液を多く分泌させるため、歯垢をつきにくくします。また、少ない食事の量で満腹感が得られるため、肥満予防～生活習慣病の予防に役立ちます。さらに、脳の血流を増やすため老化予防の効果が期待でき、寝たきりの人や痴呆状態の人が食物をかめるようになった結果、症状が改善したという例もあります。

◇味覚への影響

歯はかむだけではなく、十分に味覚にも影響しています。かんだ時の触感も、食べ物をおいしく感じさせる大きな要素です。また、口の中では、歯・だ液とともに舌が大切な役割を持っています。舌の味を感じる細胞「味蕾」の働きが鈍くなると、食べ物をおいしく感じられなくなります。

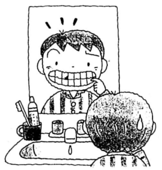
◇全身への影響

口の中だけにとどまらず、歯は、胃腸障害だったり、『不正咬合』といって、かみ合わせが悪いことから、頭痛や肩こり、ひいては『顎関節症』といって、口が開きにくい・顎を動かした時にカクカク鳴るといった異常を引きおこします。

体の中で小さな存在の歯は、人間の体にとって大きな役割を果たしています。

子供達には、おやつの時間と量を決め、『食べたら歯を磨く』習慣をつけることで、家族が虫歯から守ってあげられます。成人から中年期の人は、歯みがきの習慣を続け、必要時には早目の治療が有効です。そして、高齢期の人は、義歯（入れ歯）になっても口の中の清潔を保ち、いつも気分すっきりでいることが大切です。

今年六月四日㈮から十日㈭までの一週間は、歯の衛生週間です。この機会に、『自分の歯』を確認してみて下さい。



戸籍の窓

▼お誕生

米谷 吉之助（相内） 美男
木村 日菜乃（相内） 学
櫛引 優也（脇元） 康彦
佐藤 留佳（相内） 伸一
櫛引 凌介（脇元） 竹範
相川 琉良（十三） 勝人
小寺 博斗（脇元） 雅巳
和久 真澄（相内） 仁

▼ご結婚

澤田 薫（青森）
宮崎 理香（十三）

奈良 武文（相内）
宮崎 佳映（神奈川）

横山 智洋（北海道）
石澤 幸子（脇元）

▼おくやみ

濱田 マツ（十三） 93歳
相坂 キサ（十三） 94歳
菊池 寅雄（磯松） 85歳
山本 ハル（相内） 84歳
工藤 勝正（脇元） 58歳
佐藤 昇（相内） 73歳
中居 榮（十三） 88歳
豊島 粕太郎（十三） 93歳
安保 マヨ（相内） 85歳
柏谷 稔（相内） 54歳
佐々木 治巳（磯松） 55歳

お詫びと訂正

広報しうら四月号『おくやみ』欄で、誤りがありましたので訂正しておわびいたします。

㊢ 相川重美（十三） 74才 ⇦
㊣ 相川重美（十三） 68才

編集室から

広報を担当し、四月は、雪の中の入学式・アトム保育園の入園式とカメラを片手に取材、できあがった写真を見て、まずは自己満足、「記事は後でまとめて書こう。」と、決めたのが大間違い…。原稿用紙とのにらみ合いが日々続くのでした。

村民のみなさんのさまざまな情報提供をよろしくお願いします。（三）

☎六二―二一一一（内線一九）